

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、文章を正確に読み取ることを重視した授業展開を考えたことにより、説明的な文章の内容を読み取る力、文学的な文章の内容を読み取る力が向上している。
- ・第3学年は、授業内で様々な課題に対して自分の考えを書くことにより、書くことの力が向上している。

(2) 課題

- ・第1学年は、全体的に目標値を上回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られる。
- ・第2学年は、全ての領域において目標値を上回っているが、「調べたことをスピーチすること」においてさらに学力向上の余地がある。
- ・第3学年は、全体的には目標値を上回っている。漢字を書く事項に課題が見られた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	上回っている		
第2学年	前年度より 8.1ポイント 下回っている。	上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	前年度より 7.6ポイント 下回っている。	前年度より 9.9ポイント 下回っている。 (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読みや文法、語句に関する事項は修飾語を除き、よくできている。漢字の書き取りに関する事項は学力向上の余地がある。	文章を読み取る力、読み取ったことを文章にする力は満足できる。自分の考えを明確に記述する力は平均的である。	文章中の情報を的確に読み取り、記述することはできている。自分の考えを書く事項は平均的である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書き、文法・語句に関する事項はよくできている。歴史的仮名遣いの理解	文章を読み取る力はおおむね満足できる。 話の内容を捉え、自分の考え	おもに自分の考えを記述し、解答する問いに対して課題が見られる。

について、漢字の部首の理解について学力向上の余地がある。	をまとめることに課題が見られる。	
------------------------------	------------------	--

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読みはよくできているが、書き取りについては、学力向上の余地がある。 文法・語句においては、よくできているが、対義語の理解について学力向上の余地がある。	自分の考えを明確にして、文章を書く能力は非常に高い。 文学的な文章において、登場人物の言動の意味を捉える力には学力向上の余地がある。	相手の話を聞く力・自分の考えを表現する力については、学力向上の余地がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎週の漢字テストや、学期ごとの漢字テストを継続して行う。また、その際に、間違いやすいポイントを事前に説明したり、見直しを確実に行ったりさせることで学習内容の定着をはかる。	文章から読み取るだけでなく、図表や記号、文章構成などからも批評し、考えを書く活動を取り入れる。	單元ごとに、自分の考えを記述し、周りと共有する活動を取り入れることで、様々な意見を取り入れ、自分の考えを深めていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典教材を扱う際には授業内で音読を多く行い、歴史的仮名遣いに関する理解を深める。また、漢字の小テストを返却する際に部首の解説を行う。	各単元の最後に自分の考えを書く課題を定期的に課し、自分の考えを文章にする力を身につけさせる。	引き続き、話し合い活動や他者の意見を読んだり聞いたりする機会を作り、自分の考えを広げたり深めたりできる授業環境を整えていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎週の漢字テストを継続して行う。出題する漢字に、過去に習った漢字や、間違いやすい漢字を加える。語句を学ぶ際、その類義語や対義語についても解説を行う。	文学的な文章を扱う際には、登場人物の行動や、発言の描写について考え、発表する活動を増やす。	継続して、話し合い活動や、意見を発表する機会、他社の発表を聞く機会をつくる。その上で、自身の取り組みについて振り返る活動を増やす。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、1年次の課題を踏まえ、各種資料から適切な情報を読み取り、それらについて考察する機会を増やした。その結果、思考・判断・表現に関わる力に向上の兆しが見られる。
- ・第3学年は、2年次の課題を踏まえ、プリントや副教材等の資料を基にした基礎知識の定着を図る取り組みを増やした。また、各種資料を比較・関連させながら様々な情報を読み取る力の伸長を図る機会を増やした。その結果、知識・技能に関わる力に向上の兆しが見られる。

(2) 課題

- ・第1学年は、観点別に見ると「思考・判断・表現」の観点において、既存の知識や情報、資料を用いて他の社会的事象と関連付けて「考察する力」に改善の余地が見られる。
- ・第2学年は、領域別にみると「歴史的分野」、観点別にみると「知識・技能」の観点において基礎的な知識の定着に改善の余地が見られる。
- ・第3学年は、観点別にみると「知識・技能」の観点において、基礎・基本的な知識の定着や様々な資料等から情報を読み取ったり、情報を関連付けて社会的事象を読み取ったりする「活用する力」に改善の余地が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年			
第2学年	前年度より 0.4ポイント 上回っている。	上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	前年度より 2.8ポイント 上回っている	前年度より 12.9ポイント下回っ ている。 (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに歴史的分野や公民的分野における記述式の設定に対する知識の定着に課題が見られる。	歴史的分野のうち、おもに近現代における歴史の流れについて、資料を基に考察する力に課題が見られる。	おもに地理的分野について、複数の資料を基に考察して記述する問いに対して課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに歴史的分野の各時代における政治政策についての理解に課題が見られる。	おもに複数の資料から情報を読み取ったり、その関連性を考察したりする力に課題が見られる。	おもに資料から読み取れたことを記述し解答する問いに対して課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野・歴史的分野ともに基礎的用語を問う設問に対する正答率が低く、基礎的・基本的な語句の定着と資料活用 of 技能に課題が見られる。	自らの考えを述べる記述式の設問に対する正答率が低く、様々な資料を関連付けて考察し、自説を文章としてまとめ表現する力に課題が見られる。	日本の諸地域の工業に関する設問への正答率が低いなど、諸地域個別の社会的事象に関する課題や特徴を見出す力に課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的事項の定着を図るために、単元導入時や授業開始時に既習事項に関する復習の機会を増やす。	自分の考えを言語化して表現する力の伸長を図るために、各種統計資料を根拠に自説を言語化したり、討論させたりするような学習活動を増やす。	学習課題に対して見通しをもって取り組めるように、予想させたり振り返らせたりする活動を増やすことで、学習調整力の伸長を図る。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
理解を深めるために、授業中の内容や課題に取り組むことで復習の機会を増やす。	複数の資料について資料集などを使い、情報を読み取らせる学習活動を増やす。	問いについて、自分自身の言葉で記述する機会を設けることで、自分の考えを整理できるようにする。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元導入前の事前学習や本時の振り返り、前時の復習の時間を適宜設けることで「知識・技能の定着」に焦点を絞った時間帯を設定した授業運営を行う。	自説をまとめる上で必要な資料を収集することから行わせることで思考力・判断力を育む。また、社会的事象に関する話し合い活動から、根拠を基に自分の考えを言語化できる表現力を育む。	公民分野において、時事問題を活用して興味・関心を高めたり、身近に起こる様々な社会的事象から学習課題を見出させる活動を取り入れたりとすることで、主体性の伸長を目指した授業運営を行う。

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年では、すべての観点において目標値を上回った。前年度課題であった「データの活用」の領域でも目標値を上回っており、前年度の授業改善の成果であると考えられる。
- ・第3学年では、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」において目標値を上回った。昨年度課題であった「数と式」の領域で目標値を上回っており、前年度の授業改善の成果であると考えられる。

(2) 課題

- ・第1学年では「思考・判断・表現」に関する正答率が他の観点に比べて低かった。文章を記述するなど、自分の考えを言語化して発表する機会を設ける。
- ・第2学年では、解答形式が記述の問題の正答率が低かった。自分の考えを説明する機会を多く取り入れ、言語活動の充実を図る。
- ・第3学年では各観点の正答率は目標値と同程度か上回っているが、「関数」「図形」の領域では正答率が若干低かった。3学年の学習内容に関連して基礎的内容の確認を取り入れ、定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	上回っている		
第2学年	前年度より0.4ポイント上回っている。 (第2学年)	上回っている (第1学年時)	
第3学年	前年度より14.4ポイント下回っている。 (第3学年)	前年度より8.2ポイント上回っている。 (第2学年)	上回っている (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
多くの問題で目標値を上回るまたは同程度だった。立体の体積や等しい比を求める問題では目標値を下回っている。	多くの問題で目標値を上回っている。分数×分数の文章題や百分率に関する問題で目標値を大きく下回っている。	ほとんどの問題で目標値を上回り、特にデータの活用に関する問題で目標値を大きく上回っている。百分率に関する問題で目標値を大きく下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほとんどの問題で目標値を上回っている。直方体の辺の位置関係を答える問題では目標値を上回っているが、円錐と円柱の体積の関係を答える問題では目標値を下回っている。	ほとんどの問題で目標値を上回っている。問題文を読み取り1次式を立式する問題では目標値を下回っている。	ほとんど問題で目標値を上回っている。規則性を文字式で表す問題では目標値を大きく上回っているが、その理由を説明する問題では目標値を下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式やデータの活用に関する問題では目標値を上回っているが、関数や図形に関する問題では目標値を下回っている。	全体的に目標値を上回っているが、関数に関する問題で式とグラフの関係や図形が関連する問題では目標値を下回っていた。	全体的に目標値を上回っているが、関数とグラフに関する問題や証明に関する内容で正答率が低かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習内容を確認する機会を多く取り入れ、新しい内容と結びつけられるような指導を行う。	文章から式や式から文章、自身の考えを説明するなどの言語活動を取り入れた学習を行う。	生徒の興味・関心をひくような身近な題材を授業で扱い、自分の考えを発表する場を多く設ける。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習内容を振り返る機会を多く取り入れ、学習内容同士の関係を印象付けられるような指導を重点的に行う。	文章から立式したり、式を文章で説明したりする活動を取り入れ、文章と式の間を印象付けられるような指導を重点的に行う。	解法が複数ある問題を取り扱う際、自分の考えを説明する機会を多く取り入れ、言語活動の充実を図る。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項の基本的な内容を振り返る機会を多く取り入れ、特に関数の領域では既習事項との結びつきも確認しながら指導を行う。	特に関数の問題で、複数の領域が関連する問題に重点的に取り組む。また、自身の考えを発表する活動や他者の発表を批判的に考察する活動を取り入れる。	生徒の興味・関心をひくような身近な題材を授業で扱い、自分の考えを表現・発表する場を多く設ける。

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、3観点全てで達成率が100%を上回り、思考・判断・表現の観点では、昨年度よりも達成率が上回った。これらは、文章で記述する機会を増やしたことが一因と考えられる。

(2) 課題

- ・第2、第3学年共に、化学分野に関する理解に課題があるので、特に元素記号や化学反応式の知識の定着をはかる必要がある。
- ・第3学年では、オームの法則や電力・熱量を求める計算の技能に課題が見られた。
- ・言葉による表現だけでなくモデルや図を自分で作成し、表現する活動を増やすことで、視覚的に理解出来るようにしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	正答率の校内平均は、正答率の目標値よりも1.3%上回っている。		
第2学年	正答率の校内平均は前年と比較して0.5%下回っている。	(第1学年時) 正答率の校内平均は、正答率の目標値よりも5.1%上回っている。	
第3学年	正答率の校内平均は前年と比較して6.3%下回っている。	(第2学年時) 正答率の校内平均は前年と比較して1.4%下回っている。	(第1学年時) 正答率の校内平均は、正答率の目標値よりも3.8%上回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。 水溶液の性質に関する知識の定着に課題が見られた。	目標値を上回っている。 水溶液の性質や電気の利用についての説明にやや課題が見られる。	目標値を上回っている。 特に地学分野、生物分野が高い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度より0.4ポイント上回っている。 選択して回答することはできているが、名称を答える箇所が見られた。	前年度より1.4ポイント下回っている。 記述して回答することに課題が見られた。	前年度より4.7ポイント下回っている。 実験手法を自分で考えることが概ねできていた。

所に課題が見られた。		
------------	--	--

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前年度より10.2ポイント下回っている。 気象の観測、前線の通過と天気の変化の領域での正答率が低い。	前年度より0.7ポイント下回っている。 化学変化と物質の質量領域での正答率が低い。	前年度より13.4ポイント下回っている。 記述解答形式の問題で無回答の率が高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識の蓄積が必要なので、確認問題やドリルなど、定着のための方策を多くとる。	文章で記述する機会を増やす。またその際に文章での記述方法についても指導する。	教科書の事実を伝えるだけでなく、それを明らかにする方法について考える機会をもつ。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業内でも、用語の確認の時間を作る。一問一答形式で繰り返し覚えるよう指導する。	文章で記述する機会を増やす。またその際に文章での記述方法についても指導する。	教科書の事実を伝えるだけでなく、それを明らかにする方法について考える機会をもつ。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一度学習した課題を反復練習するためのドリルを多用し、知識の定着をはかる。	課題に対して深く考え、即答するのではなく、自分の考えをまとめた上で、お互いに発表しあい、より深く課題を掘り下げられるようにする。	課題に対するアプローチの仕方を変えるなどして、生徒の興味関心を引き起こすような工夫が必要。理科の楽しさを伝えていく。

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2年生もほぼ全ての領域で目標値を上回っている。リスニングの問題では目標値を大きく上回っていた。毎時間の授業でデジタル教材の活用や基本文の復習を行った成果がみられる。
- ・3年生もほぼ全ての領域で目標値を上回っている。リスニングの問題では目標値を大きく上回っていた。授業でのICT機器の活用による指導の工夫や帯活動でリスニング問題を日々行った成果がみられる。

(2) 課題

- ・1年生は行ってみたい国について、その国で楽しめることを記述する問題で目標値を下回っているものが見られた。英文を書く問題についてはテーマによっては目標値を上回っているものも見受けられるので、今後他国やその異文化を学び、その知識を活用して英文を書くことが課題である。
- ・2年生は目標値を上回っているものの、さまざまな英文を読み取る問題で目標値を下回っているものが見受けられた。今後、必要な情報を正確に把握し、読み取る力を更に伸ばすことが課題である。
- ・3年生は対話の流れに合った英文を相手に伝わるように書く問題（活用）で目標値を下回っていた。対話文の内容を理解し、それに即した内容を表現する力を伸ばしていくことが今後の課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	上回っている		
第2学年	前年度より4ポイント 下回っている	上回っている (第1学年時)	
第3学年	前年度より4.7ポイント 下回っている	前年度より1.7ポイント 上回っている (第2学年時)	上回っている (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文の定着をはかることで英語の音声や文法の特徴を理解できるようになっている。文字を正確に書くことも意識させる。	知識・技能に比べると伸び幅が小さい。今後、話す力を高めることで書く力を同時に高めることにつなげていく必要がある。	ICT 機器を効果的に活用し、思考・判断・表現の力と共に本観点の力も伸ばすことができるよう改善に努める。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語の音声や文法の特徴を理解できているが、英文を書く際に、小さなミスを防げるように基礎力の定着を図る必要がある。	対話文や英文の内容を読み取る項目は若干目標値を下回っている。読む力の向上に向け、今後も改善に努める。	対話文や英文の内容を読み取ろうとする項目は若干目標値を下回っているが、英文を書こうとする項目では目標値を上回っている。今後も改善に努める。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語の音声や文法の特徴を理解できるようになっているが、今後、さらに語彙を増やすなど知識を高める必要がある。	基礎的な問題では必要な情報を聞き取ることができている。今後、活用の問題も解くことができるよう改善に努める。	基礎的な問題では必要な情報を聞き取ろうとすることができている。他の領域に比べると伸び幅が小さい。今後も改善に努める。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英文を書くことに慣れていない様子も見受けられることから、英作文の活動などを通じて書くことに慣れ、英語を正しく書く力を身につけられるようにする。	自分のことについて英語で書く力を更に伸ばすことができるよう、目的・場面・状況に即し、まとまりのある英文を書き、英語で自己表現する機会を増やす。	ICT 機器も活用しながら、生徒が自ら学習に取り組むことができるように工夫する。今後も生徒が状況に即し英語で自己表現しようとする機会を設ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パターンプラクティスや音読練習の機会を多く設けることで語彙や文法の定着をはかり、英語を正しく発音したり、書いたりする力を身につけられるようにする。	英語で自己表現する機会を設けるほか、対話文や英文から必要な情報や要点を読み取る力を伸ばすことができるよう、様々な分野の読み物教材に触れる機会を増やす。	ICT 機器も活用しながら、生徒が自ら学習に取り組むことができるように工夫する。今後も生徒が状況に即し、英語で自己表現しようとする機会を設ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パターンプラクティスで文法の定着を図る。単語集を活用し、語彙力を高め、より質の高い正確な英文を書く力を養う。	英文から必要な情報を読み（聞き）取る練習や、目的・場面・状況に応じて書く（話す）練習を重ね、学んだ知識をより発展的に活用できるようにする。	ICT 機器も活用しながら、生徒が自ら学習に取り組むことができるように工夫する。今後も生徒が状況に即し、英語で豊かな自己表現ができる機会を設ける。

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・主体的に課題に取り組むことができる生徒が増えた。
- ・自分の考えを、その根拠も併せて発言したり書けたりする生徒が増えた。
- ・様々な発声練習を通して生徒の技能を高めることができた。

(2) 課題

- ・歌うことが好きな生徒は多いが、その中でも得意だと思っている生徒が少ない。
- ・実技テストなどの本番で自分の力が出し切れない生徒が多い。
- ・鑑賞分野の授業の充実

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
発声練習に真面目に取り組むフォームが整ってきている。男女ともに歌唱の技能が高い生徒が多い。知識については習熟度に差が見られる。	想像力が豊かな生徒が多く、それを歌唱表現に生かすことができる生徒も多い。自分の感じたことを書いたり発言したりする力はまだ弱い。	音楽が好きな生徒が多く、全ての活動において積極的に取り組む姿勢が見られる。また協力して活動する様子も見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女とも前向きに活動に参加しているが、全体的に歌唱の技能を高めていく必要がある。知識については習熟度に差が見られる。	他の2つの観点に比べ、力が弱い。自分から積極的に歌唱表現を工夫しようとする生徒が少ない。ワークシートへの取り組みは内容が浅い生徒が多い。	歌唱においては、男女とも積極的に協力し活動を行うことができている。鑑賞においては、発言が少なくなる傾向が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
男女とも高い意欲で取り組む生徒が多い。また特に発声練習によく取り組み技能が高い生徒が多い。知識についてもよく勉強している様子が見られる。	感受したことを歌唱表現に表すことができる生徒が半分程度である。楽譜から作曲者の意図を感じ取ることができる生徒が増えてきた。	自分達で協力したり、アドバイスし合ったりしてパート練習を充実させることができています。鑑賞については発言する生徒が多くないが真面目に活動に取り組む様子が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な発声練習を継続していくことで、技能を更に伸ばしていく。 知識は楽語の小テストを行ったり様々な活用をさせたりすることで確実な力を身につけさせる。	感じ取ったことを、発言したり、ワークシートに記入したりする活動において、教員が例を示したり、生徒同士の意見を共有したりして、自信をもたせられるような取り組みを増やす。	どの活動においても高い意欲で取り組んでいるため、表現や発言などにおいて、自信をもたせられるような活動を増やし、さらに意欲を高めていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小グループでの活動や教え合い活動を通して、基礎的な技能の向上を図る。 知識は楽語の小テストを行ったり様々な活用をさせたりすることで確実な力を身につけさせる。	歌唱表現の工夫の活動において、表現しやすいポイントを絞り、自ら感じとれるような活動を増やすことで、実体験を通じ表現することに自信をつけさせる。	感じ取ったことを、小グループで自分の意見を共有してから全体で共有するなど、発言しやすい雰囲気作りを心がける。歌唱については高い意欲で取り組んでいるので、さらに自信をつけられるよう声かけをしていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技能については、個人の技能を合唱のまとまりとして生かすことができるよう、集団の力を高めていけるような活動を増やしていく。知識については、他の音楽的な要素と関わらせて活用できるよう指導を工夫していく。	継続して楽譜から意図を読み取る活動を行い、それを踏まえて歌唱表現の工夫を全体で共有することでイメージの具現化をより明確化していく。	全体的に高い意欲で活動できているので、個人と集団の振り返りの時間を増やし、自分たちで主体的によりよい歌唱表現につなげていけるよう指導していく。

令和6年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・感染症対策の中で開発した学習題材を一層発展させて、視聴覚機器や ICT 機器を活用した鑑賞の充実を図った。3年夏の鑑賞レポートは、全てタブレット上で作成し提出させることが出来た。また一方で、感染症対策が5類に移行したことに伴い、1・2年鑑賞題材では、生徒同士が会話を通して共に教えあい学び合う活動を増やすことができた。
- ・1・2年年間指導計画の中で、ICT 機器を使った鑑賞の能力や発想や構想の能力の育成に関する題材を増やすと共に、校外での活動を伴う「美術館見学」の題材を復活させた。
- ・表現題材における「作品のよさや美しさ」の創造は、個々の生徒の主体的な取り組みから生まれることを強調して伝え、自己肯定感を高めるように努めた。

(2) 課題

- ・今年度も引き続き、生徒が主体的に取り組みつつ、生徒同士が共にまなび合う学習題材や鑑賞および表現の能力の育成に関して、ICT 機器や視聴覚機器を有効活用した新たな学習方法を開発するとともに、従来型の学習活動を改善して復活させることも必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な色彩や文字が日常生活の中から発見するワークを通して、色彩や文字などの表現の豊かさを実感させて、デザインの基礎的な学習が深められた。墨と色彩を効果的に組み合わせた表現では、各自が発想構想したイメージを創造的に表現できた。	鑑賞題材では、ICT 機器を活用して、他の生徒の意見を互いに読み取れる機会を増やしたので新たな気づきを得られていた。自ら選んで鑑賞した作品のよさや美しさを発表し合い聞き合うことで、鑑賞活動における考える力を高めることができた。	鑑賞活動では視聴覚機器やタブレットを活用して、互いを認め合いつつ、楽しく取り組んでいた。表現題材の陶芸作品の制作では互いに助け合って楽しく取り組んでいた。情報伝達のデザインの作品は互いの工夫を認め合うことが楽しくできていた。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
銅板レリーフ題材では、短い時間内で一人一人が発想豊かに、立体感の表現を工夫して制作できた。コラージュ作品の相互鑑賞・意見交換を通して発想を深め、その後に展開する凹版画の制作につながり充実した活動になった。	デザイン鑑賞では、目的や機能との調和のとれたよさや美しさを深く鑑賞できた。また班活動やICT機器を使った鑑賞で楽しく学習できた成果が、銅板レリーフや凹版画の制作における発想や構想の能力の発揮につながった。	表現および鑑賞の学習を意欲的に行い、楽しく取り組めている。学習課題をよく理解し授業にも前向きなので、主体的な取り組みがすぐれた成果につながっている。春休みの課題にも自ら工夫して取り組む生徒が多かった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1・2年で学んだ技能や造形的な視点を生かして、各自のテーマに合った表現を創造的に実現していた。表現に必要な資料を集めたり撮影したりして、タブレットを活用して、学習に役立てていた。	日本美術や仏教美術の鑑賞では、お互いの意見発表のまとめを生かして、日本美術の特質について考えることができた。扇面画、抽象彫刻では、自分の思いを反映するテーマを考えることができた。	最終学年としての意識が高まり、主体的に課題に取り組めるようになった。扇の作品では、他と比較するのではなく自分の表現として満足いく作品が作れていた。抽象彫刻でも同様であった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校図画工作での学びを思い出させる声かけをして、小中連続で学びを深めることを理解させる。各自のアイデアを生かして取り組める課題を設定し自信をもって表現活動させる。基礎的な知識や技能を確実に習得させ、表現の活動における技能や造形感覚を高める。	鑑賞授業では、タブレットの機能を生かした意見交換や視聴覚機器を使った意見や作品の発表会を実施し、よさや美しさを味わう見方や感じ方を広げる。同様に表現の発想構想でも、生徒のアイデアを発表し合って、多様な見方考え方を広げさせるような授業展開を行う。	生徒全員の学習成果を互いに認め合えるような、作品紹介や発表会の場面をさらに増やしたい。特に個々の学習成果については、観点を明確にして解説し他の作品のよさを認めるとともに、自らの作品のよさを認めることで、自己肯定感を高めたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
銅板レリーフ制作では、自分のアイデアを生かして取り組ませる。打ち出し作業の重点を眼前で説明する機会を増やし、具体的に生かせるようにする。一方で、全員の共通課題を各自が実現できるように指導する。	発想構想や鑑賞の能力を高めるために、ICT機器を生かした鑑賞会や班活動での鑑賞を実施し作品理解を深めたい。日本美術鑑賞でも、ICT機器を生かして意見交換をしながら鑑賞を深めたい。	主体的に取り組んでいる生徒が多いが、今後も多様な見方や考え方による成果を共有しあい、優れた成果を認め合う授業展開を増やして、作品への自信を深めさせて、主体的に取り組ませたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項や過去の作品での成果を想起させるように、多様な資料の提示や説明を通して、その時々制作に生かせるようにする。表現したいものに合った作り方や描き方、材料や装飾の方法などを選択して、各自が創造的に発揮できるように指導する。	日本美術鑑賞で獲得した優れた見方や感じ方を生かして、現代美術や多様な美術表現の普遍的な価値を自分なりに捉えさせる。発表会や展示などから、作品のよさや美しさをより深く広く味あわせる。その能力を今後の多様な表現活動に生かしたい。	義務教育最後の美術教科として、自分にとって最高の表現や鑑賞の活動が出来るように、自信をもって取り組ませたい。進路決定とも関連させて、主体的に自分を見つめて考えさせて、達成感や自己肯定感を高めることができる題材に取り組ませる。

令和6年度 技術科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT 機器の活用により学習効果を高めることが出来た。
- ・基本工具の使用技能を高めることができた。(工具の使用目的や使用条件をより分かりやすく解説、師範により実際に使用するときのイメージをもたせて実習に取り組むなどの工夫による)
- ・作品の完成度を向上することができた。(模範作品の提示、実習ポイントの明確化などの工夫による)
- ・ノートの取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。

(2) 課題

- ・授業ごとに製作や実習の記録を残すことで、生徒の自主性や主体性をより高める。
- ・製作の際は、作業工程別に進度を可視化することで効率を上げる。
- ・パソコンを活用して効率よく調べる技術を身につける。
- ・ノートやプリントを個別に確認することで、知識・理解の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
構想の表示方法についての知識を身に付けている。 工具や機器を安全に使用できる。	よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術の課題を明確にし、適切な解決策を見いだしている。	よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。 製作品の組み立てや点検ができる。	使用目的について製作品の構造を工夫している。	よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術についての知識を身につけている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
パソコンの特徴と利用についての知識を身につけている。適切なソフトウェアを用いて表現できる。	使用目的や使用条件に関して作品の設計を工夫している。	情報に関する技術を身につけ、知的財産を創造・活用しようとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1） 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
より安全な生活や社会の実現する材料と加工の技術の在り方について話し合い、自分の考えを発表することができるようにする。	材料と加工の技術が安全な生活や社会の実現に果たす役割や影響を踏まえ、材料と加工の技術の概念を説明できるようにする。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造するようにする。情報に関する技術を身につけ、知的財産を創造・活用しようとしている。

（2） 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー変換についての科学的な原理・法則とエネルギー変換の基礎的な技術の仕組みを説明できるようにする。	エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取り、エネルギー変換の技術の見方・考え方に気付くことができるようにする。	進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
よりよい生活の現実や持続可能な社会の構築に向けた情報の技術による問題の解決について、自分の考えを発表できるようにする。	情報の技術がよりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に果たす役割や影響を踏まえて、情報の技術の概念を説明できるようにする。	情報に関する技術を身につけ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて情報の技術を工夫創造するようになる。

令和6年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・生活や技術に対しての関心を持ち、意欲的な取り組みが見られる。
- ・基本的な生活能力を実践的に活かせるように身近な生活と結びつけることができた。
- ・製作や実習に際し、作業手順をイメージすることや基本的な技能が身についた。
- ・ノートを取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。
- ・視聴覚教材、ICT 機器の活用により学習効果を高めることが出来た。

(2) 課題

- ・製作や実習の際には、協働作業を大切にし、課題解決に主体的に取り組む態度を養う。
- ・製作の際、作業工程別に進捗を可視化することで効率を上げ達成感を得られるようにする。
- ・パソコンを活用して調べ学習等、効率的に行えるようにし、プレゼンテーション能力を高める。
- ・持続可能な社会の構築の視点から、環境保全に寄与する態度を身に付けることを育成する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の着用、選択、手入れについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	中学生の食生活と栄養について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。製作に必要な基本的な技能を身に付け、安全に作業することができる。	小学校の学習を振り返り、3年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品の栄養的特質について理解し、食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。	衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について工夫している。	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
幼児の生活と家族、消費生活、環境とのかかわりについて理解し、基本的な知識を身に付けている。	自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考える工夫している。	自分の成長や生活は、家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に必要な栄養を満たす食事について理解するとともに、地域の食文化について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基本的な知識を身に付ける。	衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができるようにする。製作の際は、手順書を読み解き、立体をイメージしながら作業できるようにする。	衣服の着用、選択、手入れについて関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとする。製作については、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解する。日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに適切に選択できるようにする。	1日分の献立について課題を見つけ、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせができるようにする。製作に必要な技術を身に付け、作業効率も意識しながら、安全に布を用いた物の製作をできるようにする。	自分の食生活に関心を持ち、健康によい食習慣について考え、日常生活で実践する。家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解し、購入に関する知識を身に付ける。自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解できるようにする。	幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて理解を深める。環境に配慮した消費生活について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活の実現に向けて、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

令和6年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・運動量の確保や成功体験を積ませることにより、運動への意欲の向上を図ることができた。
- ・フルスクワットのトレーニングの継続により、大腿四頭筋の力が向上した。
- ・一人ひとりの課題に合った取り組みができる学習カードを活用し、課題を解決させることができた。

(2) 課題

- ・各種体力はついてきたが、それをどのように活用するか、思考判断表現すること。
- ・ICT機器を活用した、運動観察を通じた課題発見学習の展開。
- ・新体力テストで投げる力が伸び悩んでいる。巧緻性、筋パワーをつけること。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について理解できつつある。筋持久力、インナーマッスル、投げる力が弱い。	自らの課題を発見し、課題解決のための作戦、戦略を練る創意工夫がある。	主体的に筋力の強化、持久力の強化に取り組んでいる。効果がでているかは未知数。何のための集団行動か、考えて行動できている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について理解できつつある。筋持久力、インナーマッスル、投げる力が徐々に向上してきている。	自らの課題を発見し、課題解決のための作戦、戦略を練る創意工夫がある。技術向上のために必要なトレーニングを自ら考えて取り組んでいる。	主体的に筋力の強化、持久力の強化に取り組んでいる。何のための集団行動か、考えて行動できている。走る力を向上するための努力をしている。スポーツを楽しむ姿勢がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について理解できている。短距離、長距離の力をもっている生徒が多い。筋力のある生徒とない生徒の差が大きい。インナーマッスルが弱い。	自らの課題を発見し、課題解決のための作戦、戦略を練る創意工夫が発展途上。技術向上のために必要なトレーニングを自ら考えて取り組んでいる。	主体的に筋力の強化、持久力の強化に取り組んでいる。何のための集団行動か、考えて行動できている。走る力を向上するための努力をしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種スポーツの理論・知識を正しく理解する。また、技術のベースとなる基礎体力の強化が急務。特に、大腿四頭筋の強化を図る。球技においては、アジリティ、スペースへの働きかけが有効なのでその練習および強化を図る。学習指導要領に掲載されている技術の習得を図る。	各種スポーツを楽しむためには、やみくもに競技に取り組んでいても効果が薄い。記録更新、試合に勝つためには、どのような練習計画があるか、どのような戦略・作戦があるか創意工夫できるようにする。	各種スポーツで楽しむためには、「体力・技術・心」をバランスよくもつ必要がある。この3つの力を向上させる努力ができるよう、その環境づくりを行う。また、安全に取り組めるようにするためには、規律ある集団行動が大切で、すべての授業の根本とする部分である。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種スポーツの理論・知識を正しく理解する。また、技術のベースとなる基礎体力の強化をさらに図る。特に、大腿四頭筋の継続強化を図る。球技においては、アジリティ、スペースへの働きかけが有効なのでその練習および強化を図る。学習指導要領に掲載されている技術の習得を図る。	各種スポーツを楽しむためには、やみくもに競技に取り組んでいても効果が薄い。記録更新、試合に勝つためには、どのような練習計画があるか、どのような戦略・作戦があるか創意工夫できるようにする。	各種スポーツで楽しむためには、「体力・技術・心」をバランスよくもつ必要がある。この3つの力を向上させる努力ができるよう、その環境づくりを行う。また、安全に取り組めるようにするためには、規律ある集団行動が大切で、すべての授業の根本とする部分である。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種スポーツの理論・知識を正しく理解する。また、技術のベースとなる基礎体力の強化をさらに図る。特に、大腿四頭筋の継続強化を図る。球技においては、アジリティ、スペースへの働きかけが有効なのでその練習および強化を図る。学習指導要領に掲載されている技術の習得を図る。	各種スポーツを楽しむためには、やみくもに競技に取り組んでいても効果が薄い。記録更新、試合に勝つためには、どのような練習計画があるか、どのような戦略・作戦があるか創意工夫できるようにする。	各種スポーツで楽しむためには、「体力・技術・心」をバランスよくもつ必要がある。この3つの力を向上させる努力ができるよう、その環境づくりを行う。また、安全に取り組めるようにするためには、規律ある集団行動が大切で、すべての授業の根本とする部分である。